

民具を語る



常民研 YouTube
「民具を語る」

民具を語る 7 (動画配信第 2 回)

日時 2021 年 6 月 10 日 (木)

発表 「宮本常一記念館学芸員 高木泰伸さん」 高木泰伸 榎村賢二

民具を語る 8 (動画配信第 3 回)

日時 2021 年 6 月 10 日 (木)

発表 単なる木の枝が重要有形民俗文化財? 「周防大島東部の生産用具」について
高木泰伸 榎村賢二

民具を語る 9 (動画配信第 4 回)

日時 2022 年 1 月 11 日 (火)

発表 「会津鋸」I 民俗学・民具との出会い 内山大介 榎村賢二

民具を語る 10 (動画配信第 5 回)

日時 2022 年 1 月 12 日 (水)

発表 「会津鋸」II 内山大介 榎村賢二

オンデマンド／オンサイト／オンラインで「民具を語る」ことの可能性

角南 聡一郎



写真 1・2 「民具を語る 10「会津鋸」II」(動画より) 会津鋸／福島県立博物館提供

2016 年度にスタートした「民具を語る」は、常民文化研究講座の中で実施されてきた。ところが 2020 年のコロナウイルス感染拡大により、様々な側面で対面での研究活動が制限され、休止する中で、「民具を語る」の活動はオンラインやオンデマンドによる手法での開催を模索した。こうした状況の中で動画配信サービス (YouTube) の活用が注目された。常民研でも活用が検討され、山口県大島郡周防大島町の宮本常一記念館 (周防大島文化交流センター) の公式チャンネル「宮本常一チャンネル」(2020 年 8 月配信開始) 等を参考としながら、動画配信をはじめた。残念ながら 2021 年 8 月の学芸員退職に伴って、2021 年 10 月 5 日アップロード分をもって休止となったことは残念である。多くの人にとって「宮本常一チャンネル」が、民具の魅力や宮本常一の人物像を知るきっかけとなったことは間違いない。同チャンネルはオンデマンドで民具を語ることの可能性を拓いたといえる。

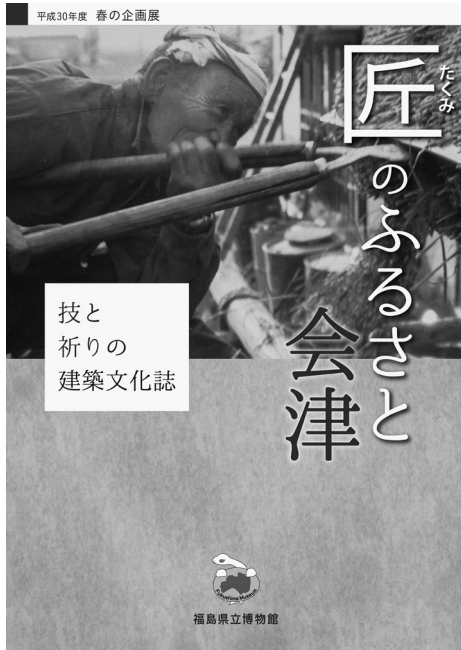


写真3 『匠のふるさと会津：技と祈りの建築文化誌』表紙 内山大介編 2018 表紙／福島県立博物館提供



写真4 天王寺鋸 内山大介編 2018 只見町教育委員会蔵

引き続き 2021 年度も第 4 回・第 5 回（2022 年 1 月 11 日・12 日にアップロード）の動画配信を実行した。「民具を語る 9「会津鋸」Ⅰ 民俗学・民具との出会い」、「民具を語る 10「会津鋸」Ⅱ」がそれである。これらは内山大介氏（福島県立博物館学芸員）に対して檜村賢二氏（常民研客員研究員）が聞き手となり、内山氏との民俗学・民具との出会いにはじまり、2018 年に福島県立博物館で開催された、春の企画展「匠のふるさと会津」で展示された建築関係の民具、特に「会津鋸」についての紹介がなされている（写真 1・2）。

企画展開催期間は 2018 年 4 月 28 日～6 月 24 日であった。近世中期以降、会津は大工道具の一大生産地となった。中でも鋸は名産品で、若松、喜多方、高田などの町場には屋号「中屋」を名乗る鋸鍛冶が軒を連ねた。特に会津は「天王寺鋸」と呼ぶ伐採用手曲鋸の産地として知られた。伝承では享保年間に大阪天王寺の鋸鍛冶・中屋重内が会津に招かれ、鋸製作を伝えたことにはじまるという（写真 3・4、内山編 2018）。

動画でも言及されているが、鋸の生産地としては滋賀県の甲賀地方の「甲賀鋸」が特に有名であるが、「会津鋸」の存在について、動画を通じて広く知ってもらえる機会となったのではなかろうか。こうした点は、オンサイトではなかなか難しいがオンラインやオンデマンドでの情報では、その場に赴くところなく手軽に知識を得ることができるといえる。今後の「民具を語る」は、オンサイトで民具の実物を熟覧したり手に持ったりしながら、コロナ以前のスタイルでの開催を目指すとともに、常民研所蔵資料を紹介する動画を製作し、YouTube 版「民具を語る」として継続していくことも模索していく予定である。

【参考文献】

内山大介編 2018 『匠のふるさと会津：技と祈りの建築文化誌』 福島県立博物館